木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議経過要旨

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">令和５年度　第１回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>令和５年９月１３日（水）<br>１０時００分～１２時００分</td><td>場　　所</td><td>木津川市役所<br>第２北別館</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者<br><br>■ 出 席 者<br>□ 欠 席 者</td><td>委　　員</td><td colspan="2">【第１号】<br>■中村　裕彦委員　■藤原　文野委員<br>【第２号】<br>■真山 達志委員(会長)　■今里 佳奈子委員(副会長)<br>【第３号】<br>■市川 浩之委員　□森川 泰行委員　□中﨑 鉄也委員<br>■鍵谷 康裕委員　■冨田 嘉彦委員　□姜 京希委員<br>□松尾 有基委員　□佐脇 貞憲委員　■西村 正子委員<br>■三上 かず子委員　■川崎 あき委員　■河合　智明委員<br>■浦辻 克碩委員　■松本 藍委員　□大倉 竹次委員<br>■松永 弘道委員</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="2">舩岡政策監、茅早マチオモイ部長、阿部マチオモイ部理事兼デジタル戦略室長、西村学研企画課長、松下学研企画課主幹、吉田学研企画課長補佐、河野デジタル戦略室係長</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">１．開会<br>２．会長・副会長の選出<br>３．議事<br>・第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について<br>・第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果と KPI の評価<br>・木津川市スマート化宣言について<br>・人口ビジョンについて<br>・市民アンケートについて<br>・今後のスケジュールについて<br>４．その他<br>５．閉会</td></tr>
<tr><td>会議結果<br>要　　旨</td><td colspan="3">１．開会<br>事務局から開会を宣言<br>市長挨拶<br><br>２．会長・副会長の選出<br>事務局一任により、会長に真山達志委員、副会長に今里佳奈子委員を指名し、出席委員全員の承認を得た。<br><br>３．議事<br>・会議録の署名委員として中村委員を指名した。<br>・第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について<br>資料１【木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会】に基づき事務局から説明があった。</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | ・第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果とKPIの評価について<br>資料２【木津川市まち・ひと・しごと創生「第２期総合戦略」成果と指標による評価】、資料３【第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み事業実施KPI一覧】に基づき事務局から説明があった。<br>・木津川市スマート化宣言について<br>資料４【スマート化宣言実績一覧（令和２年度～５年度）】に基づき事務局から説明があった。<br>・人口ビジョンについて<br>資料５【木津川市将来人口推計（現状のままの場合　暫定値）】に基づき事務局から説明があった。<br>・市民アンケートについて<br>資料６【木津川市のまち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民アンケート】に基づき事務局から説明があった。<br>・今後のスケジュールについて<br>資料７【（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略の策定に向けたスケジュール】に基づき事務局から説明があった。<br>４．その他<br>・案件なし<br>５．閉会 |
| 会議経過要旨<br><br>◎会長<br>○委員<br>→事務局 | １．開会<br>会議結果要旨のとおり開会した。<br>市長挨拶<br>・委員就任及び委員会出席へのお礼<br>・第１期、２期の総合戦略では、人口流出の抑制・出産子育て環境の整備・雇用の確保・市内外の連携交流などの課題に取り組んできた。<br>・市の人口はピークを迎え、今後は人口を維持してくための取組みが必要になる。<br>・次期総合戦略では新たな人口ビジョンのもと目標を定め、デジタルの力を活用しながら地方創生を推進していく。<br>・委員の皆様方から貴重な意見や提案を頂きたい。<br><br>２．会長・副会長の選出<br>会議結果要旨のとおり選出した。<br>会長挨拶<br>・木津川市の総合戦略では特に子育てに特化させ、ポイントを定めてつくってこられた。<br>・今回の改訂はデジタル田園都市国家構想の要素も考慮する必要があり、地域の自主性・主体性をどのように発揮するのかが難しいところ。<br>・木津川市の地域の実情や実態、市民の皆様の色々な要望を踏まえた市独自の総合戦略を作れればと思う。<br>・委員の皆様方の色々な知恵や経験を出して頂きたい。 |

３．議事

第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

【主な意見・質疑等】
○「木津川市のデジタルに関する取り組み」で、①市民サービス、②「稼ぐ」地域づくり、③行政事務の３つがあげられているが、これに関して１次産業である農業も重要な課題だと考えるが。
→農業については、ＩＴ、ＩＣＴ技術を活用したスマートな農業で、「稼ぐ」地域づくりを目指していくという項目の中に、文言としては出ていないが含まれることになる。
○市民の理解を得るためには、きちんと文言で表現することが重要ではないか。
→市でのスマート化宣言は、令和２年から実施しているが、今回の総合戦略の改訂にあたって、これを取り込んだ形での改訂を考えている。その中でこのスマート化宣言よりは、文言として表せる改訂ができると考えている。
○加茂地域の者として、交通網のインフラが非常悪く、地元の人は公共交通、コミュニティバスやタクシーの利用がしにくく、非常に困っている。観光に関わる活動をしているが、来訪者を案内する際、歩いていける年齢ではなかったりする、結局来ていただけないことが結構ある。また、日々の高齢者の方たちが動くのに、朝と夕方の通学バスだけで、本当に困っている。もう少し行政が歩み寄って、どこが欠けているかを把握してデータにしないと衰退するしかないと思う。自らの活動においても、私たち自身も若くはなく、観光ルートの草刈りなどができない状態であり、何とかそういうところをきちんと項目立てて対応してほしいと思う。
◎総合戦略は、基本的には人口をいかに維持するか、拡大するかという、人口に焦点がある。本日の資料も人口動態を中心に現状を紹介しているので、今指摘があったような個々の具体的なテーマについての資料は十分に整っていないことは否めないと思う。総合戦略だけでなく、総合計画も今、改訂が進んでいる。総合計画の方では、総合的にすべての分野について、木津川市が今後どう取り組むかの検討をしている。今後の議論や検討には、問題点に関する資料の準備なども留意してもらえればと思う。
人口動態は、当初の予想より早めにピークを迎えて、むしろ減少傾向にあるのではないかという、ある意味一層危機感を強く持たないといけない状況かと思う。そういう前提で、今後総合戦略の検討を進めていくことにする。

第２期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果とＫＰＩの評価

【主な意見・質疑等】
○資料３の数値目標（KPI）と子育て未来KPIはどう違うのか。
→木津川市は子育てに特化した総合戦略にしたいという観点から、他市町村では数値目標KPIのみを設定しているところが多いが、あえて子育てに関する目標として子育て未来KPIを設定している。

| | |
|---|---|
| | ○KPI 評価を重要視されて、その結果から効果があったなどとされている。これはあくまでも、業績に対して目標を定めて、その中間評価の資料として利用する数値だと思う。それが、行政が実施する政策の評価として、このように結果として表すということについては誤った見方をすることにつながらないか。分析要素が細かすぎる、あるいは部分的すぎる、どういう目標に向かって進んでいるのか忘れがちになることがこの KPI 評価の欠点だと思う。<br>例えば、自分が関係している「安定した付加価値の高い農業の振興」では「新規就農者延べ人数」が設定時 12 人、目標 15 人、実績 21 人、計算すれば 175%で非常に効果的と表われるが、行政側は実態を実感されているのか。それとも数字がこう表れたから、これでいいというような評価をしているのか。KPI にあまりにも依存しすぎると、行政のサービスとしての半分しかできていない、要するに現場を知らず現実を把握することができていないことになると思う。<br>◎KPI について、木津川市では、数値目標の KPI と、それにプラスして子育て未来 KPI という独自の KPI が設定されている。そもそもこの KPI を設定するということが、地方創生の総合戦略をつくる時の一つの要件になっている。従来色々な取組みをやる、これだけやったという実績は報告されるが、実際にそれはどんな効果を生んだのかがきちんと把握されてなかったという問題が、古くから指摘されており、地方創生の総合戦略をつくる際には、単に実績としてこれだけの仕事をしたというだけではなく、それがどんな効果につながったか数字で示そうという努力をしているが、その努力がなかなか実を結んでいない。したがって、今ご指摘があったように、数字に落とし込んでしまうと、その数字が達成できたらそれていいというように、どうしても数字だけが独り歩きする傾向が出てきてしまい、本当にそれに向かって取り組んだ人たちの思いや考え方、満足度、課題認識といったものがどうしても数字では表せないところがある。そういうことから、最終的な評価をする時に、まず数値を見ることが第一段階で、それが達成できていないというのはそもそも取組みが不十分であったとか、何か特別の事情があったということを検討するための重要な情報になる。一方で、数字が達成できていた、良い数字になっていたことで、それで満足するということではいけないというのは、ご指摘の通りだと思う。したがって評価Ａになったからそれでよしということではなく、Ａになったのはなぜなのか、それで本当に十分なのかということについての検討・検証がさらに必要になる。そういう作業の入り口段階の資料だと理解せざるを得ないという認識をしている。評価というのが、どうしても数字で評価しないと客観性、あるいは一般化ができないということがあるので、KPI に限らずいろいろなものを数値化することが非常に有用だ。一方で数字で表すにはいろいろな意味で限界があるので、そこをどう補っていくのかが、評価の一番重要な課題であり、検討しないといけない部分だと思う。<br>○２「関係人口」「交流人口」の増加の項目の、数値 KPI の観光入込客数がＤになっている。子育て KPI だとＡになっている。その右の「文化財出前講座参加数」と「キヅガワゴン活用イベント入込客数」はＤになっている。市役所に関わるものについてのみのが書かれているということか。自分が関わって |

| | |
|---|---|
| | いる事はこうではないのではないかと思う。ＤがＡに上がってしまう理由もわからないが、最終的に行政が関わったものはＤに落ちているのは、何なのかと思う。<br>◎KPI と一口に言っているが、着目している側面が異なり、一番左側の観光入込客数はいろいろな取組みをしたトータルの効果として出てくる数値だ。それがＤ評価になっているのは、この間コロナの影響がありどうしても減ったので、いくら頑張ってもなかなか増やせなかったということだと思う。子育て未来 KPI は交流人口を増やすことに関連する中で特に子育ての側面でどういう取組みがあるかを取り上げているが、それについては今までゼロだったものが新たに始まったことがあるので非常に良い成果が上がったことになったということだろう。横に並んでいるが、同じものをずっと追いかけているわけではなく、ある分野のこの部分と、焦点を合わせているものが違うので、ＡになったりＤになったり、一見すると不自然な動きをするような感じがするが、そういう背景がある。<br>真ん中にある子育て未来 KPI は、木津川市の総合戦略は子育てに焦点を合わせているので、どんな分野のどの取組にも、子育てという視点でどういう取組みがあるかを抜き出してきているので、全体の流れからすると、流れが悪くなる可能性はあると思う。次に観光や交流人口に関する部分はどうしても、直接的にコロナの影響を受けてしまっているので、かなりのものがＤになってしまったということだと思う。ここでは３つＤがあるが、これは多分コロナがなければＡか悪くてもＢになっていただろうと想定はできる。ここに上げた事業をやればそれなりに人も集まるので、結果的にはほとんどＡになると思うが、それは仕事としてきちんとやっているかどうか、計画したことをきちんとやったかどうかのチェックに近いものになる。<br>○子育てのところで、いつも待機児童ゼロを計測していて数字はあがってくるが、実際に保育園に通わせているお母さん視点に立てば温度差がある。待機児童ゼロが計算のされ方で 100％になっているというのはわかるが、保育ニーズの対応がちゃんと考慮されているのか疑問に思っている。実際、子どもが複数いるお母さんが、違う保育園を希望するわけがない。結果的に預けられることはできた、だけどそういう現状は今もあるし、前からずっと続いている。それは保育ニーズの対応にはなっていないのではないか。<br>そういった点は現場の担当部署でも、窓口になっているところは感じているのではないかと思うが、それがこの数字に表れてこない。<br>○待機児童ゼロと書いてあると、なんとなくこれはもう改善しなくていいなというようになっていくので、ここはゼロとするよりは、保育ニーズの対応について、何か集計のとり方を変えると、この評価ＡがＢかＣに変わり、ここはもうちょっと改善しないといけないだろうという心持になるのではないかと感じる。市外から木津川市に一時保育で預けたいけど、結局企業主導型保育園しか預けられないというのは、これは待機児童ゼロになるのかという問題とかもあると思う。<br>◎待機児童については、以前からゼロと言っているが、潜在的には待機児童はいっぱいるとか、実態はそんなにいいものではないと、木津川市に限らず、全国的にいろいろな所で指摘されている。こういう数字は、特に行政がやる |

からというわけでもないが、数字はある定義に基づいて測定すると、こうなるという数字しか出てこない。そういう意味で、一応みんな保育園に入っていると待機児童はゼロになる。本当に入りたい所に入れたわけではないという実態を、その数字は全く表現できていないのは、数字の限界だと思う。今指摘されたように、この表が待機児童ゼロでＡ評価になっているが、さらに欄外にこれに関して今後の課題の欄があり、本当の市民のニーズに答えるためにさらにこういう側面があるということが付くのが、理想的な評価表になると思う。

行政としてはそこまでは作りづらい。その課題を書いてしまうと実現しないといけないということになる。審議会としては委員の意見が自由に述べられるが、市の立場に立つと、課題認識はあるが予算がないのでできないとも言えない。そこはなかなか微妙なところかと思う。そういう意味で、この表には色々限界点があるが、委員の皆さんは、的確に、その限界や問題を認識していると思うので、その点を次の計画の中で、ここは少し弱い、もう少し踏み込んだ方がいいというような意見を出してもらえるとありがたい。これはあくまでも形式的に第２期総合戦略の数字を把握した結果になっているので、市としてももちろん、Ａになっているからこれでよいと思ってはいないと思う。あくまでも数字はＡになったという認識を十分に持って、できればもっと改善すべきことがあるということは、それぞれの部署で考えていると思う。それをどこまで総合戦略、あるいは総合計画、その他の色々な施策の中に反映していくかを注目していかなければならないと思っている。

〇私も３人子どもがいて子育て世代ではあるが、子育て未来 KPI という子育てだけに特化した KPI は次も継続するのか。

→今まで子育てに特化してやってきたということはあり、次期戦略はデジタル田園という名称にはなるが、子育ては特化していきたいので、どう表現するかは今後の検討だが、子育てに対する KPI も載せていくことになると思う。

〇まち・ひと・しごとなので、子ども子育ても大変重要な課題だが、それに関わる大人の満足度がすごく重要だと私は思っている。しごと、お金を生む、そこの部分も必要ではないかと思う。この委員会は、子育てプラス、それにかかわるしごと、大人の満足度を増やしていくことかと思う。評価基準も、しごとがどういう形になるかわからないが、変わるかもしれないということか。

→これから市民アンケートも実施する。そこからの課題を含めて、KPI については、今のご意見も含めて検討したい。

◎最初の総合戦略をつくる時から、総合計画がもともとある中で、改めて別に戦略をつくる時に、何か特色を出す、ポイントを定めるというところで木津川市の場合は、前市長の考えもあり、子育て、子どもにやさしいまちにしていくことを中心に置かれた。それがどこまで実現できているのかを子育て KPI で見ていこうとしたが、実際に採用されている数字が非常に具体的なものが多いので、子育ての事だけをやっているように見えるが、必ずしもそういう趣旨ではないと思う。ただ今回の改訂にあたっては、田園デジタル都市構想の要素もあるので、今後も子育てに特化していくのかということも検討の余地はあると思う。戦略なので、何か狙いを定めて、町の特色を発揮する

| | |
|---|---|
| | とか、そういうこともあってもいいかと思う。<br>○農業で、新規就農者を増やすなど、農業のところで見ていると農業に特化した施策が色々あると思うが、教育関係で、仕事体験の受け入れや農業体験などを行っているが、それは学校教育課との関わりになる。新しい取組みをしたい時に、どちらに提案していけばいいのか、どちらに言えば効率よく動くのか、そういう時に二つの課のつながりが薄くうまく進まないという印象を持っている。今後総合戦略を立てるにあたっては、他課との連携について市役所全体で検討してもらえたらと思う。<br>→行政の縦割りでの事業では、うまく進まないことは認識している。ご指摘のとおり部課を跨いでの横の連携について検討していきたい。<br>◎農業と教育では、学校教育は教育委員会で市長部局と連携するのには壁が厚いのかとも思う。例えば、農業と福祉の連携の場合は、どちらも市長部局にあるが、それでもなかなかどちらが中心になるが、ある意味押し付け合いのようになってしまうこともある。木津川市の場合も、マチオモイ部のような部編成にもできるだけ横割りになるようなことを試みているので、それが色々な取組みに成果としてあらわれるようにやっていただきたい。<br>○取組み自体を考える時に、どんな効果があるのかを考えてもらいたい。今回は小学校と関わりがあったが、その小学校は農業を体験して、農家の声を聞くことで、地元の農作物を意識させて、それによって市民性を意識させるという目標を持っている。それは素晴らしいと思う。そういう考えをもって指標を見ると、新規就農者の延べ人数が策定時 12 人、では（目標）15 人で何を達成するのか。耕作放棄地を減らしていきたいのであればそれでは絶対に足りない。これが毎年続く人数であれば、継続さえできれば力になると思う。そのような策定する目的がはっきりしないことには、何も進んでいかない。<br><br>木津川市スマート化宣言について<br><br>【主な意見・質疑等】<br>○資料４に「市内公共施設３か所に Wi-Fi 機器を設置」とあるのは、どの施設に設置したのか。<br>→南加茂台公民館、庁舎北別館、山城ふれあいセンターの３か所になる。<br>◎スマート化宣言が、今は独立した存在であるが、デジタル田都市構想があるので、それを総合戦略の中に組み込むことも検討することになる。共通性が高まるので、色々なものが乱立しているよりは、一つにまとめたほうがいいと思う。いずれにしてもスマート化ということ自体は、今の時代、当然進めていけばいいと思うが、これはあくまでも手段・ツールなので、これによって何がどう変わるのかが大事だと思う。そのあたりは戦略の中でうまく位置付けていけばいいと思う。<br>○行政事務のスマート化には、「クラウド化の推進」とあるが、これは庁内の事務を外部委託することになるのか。<br>→これまで庁内にあったサーバーを、民間のサーバーにおいてデータを移管し、保守や災害時対応を業者に委託する内容を含んでいる。<br>○そういう場合、個人のセキュリティ、情報のセキュリティはどういうことに |

| | |
|---|---|
| | なるのか。<br>→個人情報に関しての市民のデータも含まれているので、個人情報について遵守する契約を別途結ぶことになる。<br>○サーバーにウイルスが入った時には、木津川市の事務はどうなるのか。<br>→ウイルス対策や情報漏洩に関する市の基準があり、それを徹底して、基準をクリアした業者にのみ委託、データ移管を行っている。<br>○GIGA スクールについて、小中学生がこれを使う環境、大容量通信、校内 LAN、無線 LAN などの整備はされているのか。<br>→GIGA スクールに関しては、市立小中学校の全生徒にタブレット端末を配布しており、そのうえでデジタル教科書、AI ドリルのような先進技術を用いた教育をすでに実施している。それに合わせて高速通信環境も整備してきている。<br>○資料１のｐ3 に国のデジタル田園都市国家構想総合戦略があり、その【施策の方針】として、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決として①～⑤がある。これまでの木津川市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の柱立ては、資料３の基本目標１～６になっていると理解したが、国の総合戦略との関係でいくと、国の①が市の１で、②が２、③が３、④魅力的な地域をつくると⑤地域の特色を生かすが、4，5，6 という整理の柱立ての施策で組み立てられているというような理解で良いのか。<br>次回以降の話になるが、具体的な柱を実現化する中でデジタル化を議論すればいいのか、それとはまた別にスマート化はもっと広い意味で市全体を指して重ね合わせていったらいいのか。今後の展開の組み立てについて考えていることがあれば教えてほしい。<br>→国が言っている解決しなければならない課題があり、それに一定沿った形で柱立てをすることで、今までもやってきた。今後もそうなるが、そこに木津川市の特色は盛り込んでいく形になる。１期から２期については、国の戦略も１期を引き継いでいたので、同じ形でできたが、今回は国も抜本的に改訂ということで、国の柱に、交付金を取る関係もあり沿うことになる。施策については今回の改訂に向けて検討を考えている。その新しく立てた施策を実現するにあたって、デジタルツールをどう使っていくか、どう使えるかということを、総合計画と総合戦略とで、すみ分けながら盛り込んでいくことになる。<br>デジタルについては技術発展が速いものなので、最初に取組みを固めすぎると柔軟に動けない面もある。柔軟に動けるよう、交付金をうまく使っていけるような書き方に工夫できればと考える。<br>○基本目標のような新たな柱で実現化するという論理構成で、一つはそれで産業というかビジネスになるかもしれないし、そういう行政の取組みを国から支援してもらえるところは視野に入れていくことになるのか。デジタルを産業としても見るし、市民の生活を豊かにすることをベースにしながらも、いろいろなことにも使っていくことで、トータルとして組みあがっていくという理解でいいのか。<br>→今回は、新たに人口ビジョンをつくって、どういうまちの人の流れをつくっていくのか、それに向けての各施策を出していく。デジタルやスマート化は、しごとをつくるという面でいくと産業にも結び付いていく。子育てのことを |

考えれば、生活というところにもなるので、どの要素にもなり得るものだと思っている。最終的には国の交付金を見据えて、どの要素であっても使えるところにはしっかりと盛り込んでいきたいと考えている。

◎デジタル化にはいろいろな側面があるが、とりあえずインフラを含めて初期投資に結構かかるので、この部分については国の交付金がもらえる時にやっておかないと後で後悔することもある。そのため、戦略的に国の方針や枠組に乗る形で、木津川市の思いを実現していくことを考えるのが得策。個々具体的なことについては今後検討していくということで、デジタル化・スマート化の側面が今回の総合戦略には含まれてくるということで了解いただきたい。

人口ビジョンについて

【主な意見・質疑等】

◎日本で人口問題の研究の最先端を行っているはずの社人研の推計でも、なかなか実態に合わない部分も出てくることがあり、難しいというのが正直なところだ。今後、色々な要素を取り込みながら、さらに検討を加えて最終的な人口ビジョンの推計値を出していくことになる。

市民アンケートについて

【主な意見・質疑等】

○ペーパーレス化を進めるということもあるのに、紙を送付するのか。18 歳以上の 5500 人という縛りを決めてやらないといけない理由が何かあるのか。10 年 20 年後を見据えるのであれば、18 歳以上で区切らず、小中高校生くらいの世代の子たちを対象にした質問があってもいいのではないのか。学校にアンケートを依頼するのもひとつである。確実に木津川市内で働いている人、働きながら住んでいる人の回答を得たいのであれば、商工会などを通して職場への依頼をした方が、回答数も多くなるのではないかと思う。

→前回との比較もあり、年齢は前回のアンケートと合わせた提案になっている。5500 人の無作為抽出で 1000 人くらい返ってくれば、市民全体の意見としての信頼度はあるという統計的な考えのもとでアンケートを設計している。

○18 歳以上でないと有効回答とは見れないのか。

→年齢については考え方があると思うが、質問内容から 18 歳以上くらいの方が答えやすいところもあり、検討の結果 18 歳以上としている。

○そうであれば質問内容を変える必要がある。目的として人口減少を抑えるための調査であれば。もちろん 18 歳以上の人たちが出ていくのを抑えたいというのはあるが、子どもたちが育った後にどれだけ残ってくれるかを現状だけでも把握することではないかと思う。

◎前回との比較もあるので、このアンケート自体は 18 歳以上でやるとして、もしやるのであれば中学生向けのアンケートを別途つくり、学校でやってもらうとかも考えられる。回収率を上げるためのいろいろな工夫とあったが、前回約 30％ということだが、一般的に言えば、これだけの質問項目があって

| | |
|---|---|
| | 30%はいい方だと思う。一方でいろいろな所に個別に配布すると、回収率は上がるが無作為性が低下するデメリットがある。そこは難しい所である。職場などを特定すると、そこに一定の属性が加わってしまう。色々な職種の人を無作為に選ぶのが、無作為抽出の意味合いだが、結果、回収率は下がるというジレンマはある。<br>○中学生は中学校のクラスを無作為みたいに、ある中学校の1年1組を無作為に選んでというのがあっても、色々なアイデアがあがってくるのかなとも思う。<br>○前回は回答者の年齢層は全部あるのか。その中で若い人の回答は少なかったのか。このようなアンケートが送られてきて、時間をかけて回答できる人しか、回答できないと思う。QRコードをつけてWeb回答はできないのか。<br>→前回アンケートでは若い人の回答は少なかった。いったん紙は送り、Web での回答もできるような対応にする。<br>○広報にQRコードをつけて、誰でも回答できるようにはしないということか。<br>→それでは無作為抽出にはならない。意見を言いたい人だけの意見が集まることになる可能性が出る。<br>○社会教育で、生涯学習に関するアンケートをWebでやったら回答率が増えたことは実際にあった。その効果は若い人には大きいと感じた。<br>○資料にある中学生アンケートはどういう方法でやったのか。<br>→今年度は総合計画も改訂しているので、総合計画の方では、市内中学校にお願いして市立中学校全部への中学生アンケートを実施している。<br>今年度、この総合戦略とは別に少し先行して総合計画のアンケートを18歳以上の市民に対して無作為抽出で実施した。回収率が28.3%、前回よりは回収率が少し落ちている。年齢別では50代以上の回答率が高くなる傾向がある。総合計画でもWebの回答を今回から取り入れている。Webの回答状況は20代、30代が上がりはしているが、50代以上の回答率が高いので、全体としては発送した際の年齢割合よりは、20代、30代が縮小する感じになっている。おそらく総合戦略のアンケートでも同じような傾向になってくると思う。<br>◎総合計画策定の方でもアンケートを実施している。もちろんその結果も参考にしてもらうといい。先ほど中学生アンケートと言ったが、一つの考え方としてはあるが、総合計画でも取ったばかりなので、学校の方もアンケートに協力するのはいいが、そんなにしょっちゅうでは難しいことがあるかもしれない。できるだけ、総合計画の方のアンケート結果も活用したらいいと思う。総合戦略のアンケートについては、今の案のようなものを、Web 回答も可能という形で実施して、30%プラスαくらいの回収率を目指すということで、質問項目や表現等についてはまだ修正が入る可能性があるということでご了解いただきたい。<br>○アンケートの中身とは関係ない質問だが、これだけのボリュームで、複合的に設問があり、系統別に分析をしていかなくてはならない。これはどこかに委託しているのか。<br>→策定にあたっては、コンサル事業者に業務委託をしている。<br><br>今後のスケジュールについて |

| | |
|---|---|
| | 【主な意見・質疑等】<br>　質疑なし<br><br>４．その他<br>　案件なし<br><br>５．閉会 |
| | 署名欄<br><br>総合戦略推進委員会　議長<br><br>総合戦略推進委員会　委員 |